

経営比較分析表（平成29年度決算）

福島県 古殿町

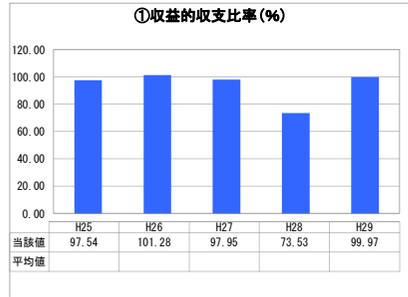
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	50.01	100.00	4,200

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,419	163.29	33.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,686	1.76	1,526.14

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



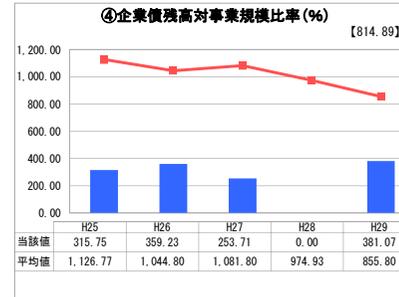
「単年度の収支」



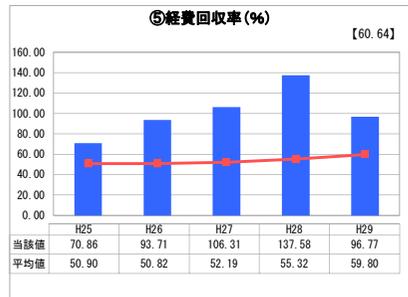
「累積欠損」



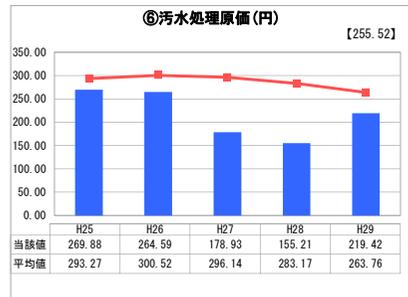
「支払能力」



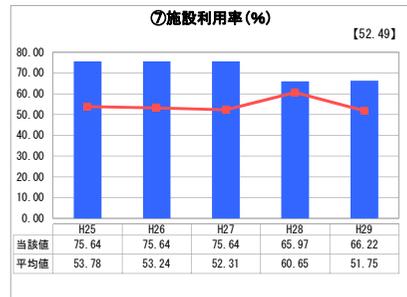
「債務残高」



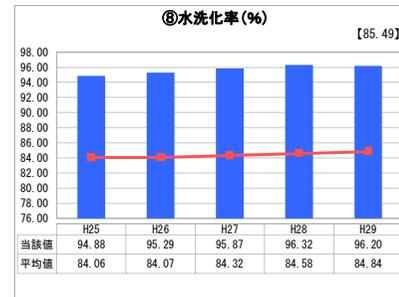
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

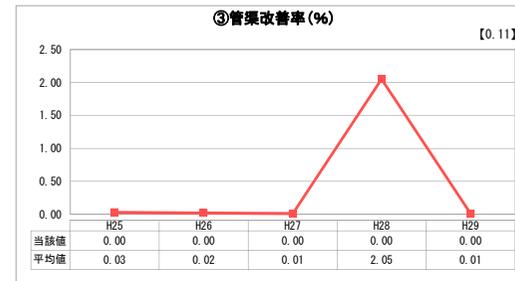
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

年度間による収益的収支比率のばらつきが激しい。これは施設設備の更新費、修繕費による差異であるが、より安定的な事業運営のために計画的な設備更新、修繕を行う必要がある。

また、企業債残高対事業規模比率が類似団体平均値を大きく下回っているため、経費削減による出費抑制及び使用料等回収率向上に努め、一般会計負担とのバランスを図る。

更に、汚水処理原価については例年、類似団体平均よりも安価に設定されているので、実情に応じた適切な使用料金設定について検討し、運営する必要がある。

2. 老朽化の状況について

管渠改善率については、布設年との兼ね合いで、年度間の更新にばらつきが生じている。より安定的な事業運営をするため、管渠全体の老朽化を把握し、全体の修繕計画を作成することで年度間の更新修繕費の差を極力抑える。

全体総括

今後は過疎化、少子高齢化に伴う人口減少により、施設効率性の悪化が予測される。施設等の老朽化も進行しており、更なる汚水処理コストの悪化が予測されるので、実情に応じて使用料金改定や費用相対効果を検討しながら、施設効率化を図るなどの対応が必要になる。

また、収益的収支比率向上のために、農業集落排水未接続世帯への加入促進を行い、更なる水質保全にも繋げる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。